

NEWSLETTER

2019 年度研究関連活動報告

2019 年度、外教学会では研究に関連して以下の研究会、研究大会を開催いたしました。いずれの回も授業実践、研究活動にすぐに役立つ内容で「学理と実際との調和」という関西大学の学是を体現する有意義なものでした。11 月開催の秋季研究大会は、体制が変わって初めての試みで、在学中の大学院生が企画運営を担当しました。

◆2019 年度関西大学外国語教育学会研究会

- ・日時：2019 年 6 月 22 日（土）13：30～16：00（受付開始：13：15～）
- ・講師：新谷奈津子先生（関西大学外国語学部教授）
- ・演題：「ライティング活動におけるフィードバックの役割と効果：研究成果と今後の課題」
- ・会場：関西大学千里キャンパス 岩崎記念会館 4 階 401 教室
- ・参加費：会員（無料）・非会員（1000 円）

◆関西大学外国語教育学会 秋季研究会 2019

- ・日時：2019 年 11 月 17 日（日）13：00～16：40
- ・会場：関西大学千里山キャンパス岩崎記念館 4F
- ・参加費：会員（無料）・非会員（1000 円）

<プログラム>

12：30～ 受付開始

13：00 開会式

【第 1 部】

13：10～13：40 研究発表 1

「朝鮮語における味覚形容詞の程度性研究—辛 “맵다” 苦 “쓰다” を中心に—」

日野千秋 氏（関西大学外国語教育学研究科博士課程前期課程：高 先生ゼミ生）

13：40～14：10 研究発表 2

「英語シャドーイングの足場掛けとしてのシンクロ・リーディング：音声変化の視点から」

胡海 氏（関西大学外国語教育学研究科博士課程前期課程：山根先生ゼミ生）

【第 2 部】

14：20～16：30 講演

「外国語学習とコミュニケーションの情意的側面」

八島智子 先生（関西大学外国語学部・外国語教育学研究科教授）

※含む休憩及び質疑応答

16：30～ 閉会式

17：00～ 懇親会@ケープコッド（CAPE COD）

※懇親会の費用は 4,000 円程（当日申込制）

2019 年度関西大学外国語教育学会研究会

講演：「ライティング活動におけるフィードバックの役割と効果：研究成果と今後の課題」

新谷奈津子先生(関西大学外国語学部 教授)

6 月 22 日(土)快晴の空の下、関西大学外国語教育学会(外教学会)が新体制になって初めての研究会が開催されました。今回も多様な校種、語種の方総勢 40 名が集う外教学会らしい会となりました。

今回お招きした講師は、今年 4 月に関大外国語学部に着任された新谷奈津子教授。演題は、教師を悩ませる「ライティング活動におけるフィードバックの役割と効果」で、研究的側面と実践的側面が絶妙に織り交ぜられたお話で、あっという間の 2 時間でした。

お話は、①学習者に誤用は訂正されるべきか？②どの誤用が訂正されるべきか？③いつ訂正されるべきか？④どのように訂正されるべきか？⑤誰が訂正するべきか？という問いに答える形で展開されました。

一般的に、書く活動と訂正フィードバック(CF)は一連の流れとなっていると思われていますが、その過程を、直接・間接 CF、焦点型・被焦点型 CF、逐次・遅延 CF 等という形に切り分けて紹介していただいたことで、普段、無意識的に行っている事を客観的に振り返ることができました。

ともすると、「果たしてフィードバックにどれほど効果があるのか？」「自分がしている訂正フィードバックはこれでいいのか？」という疑問が頭をよぎることがあるのではないのでしょうか。今回の新谷先生のご講演のエッセンスを集約すると、以下の項目になります。

- ・フィードバックには効果があります！
- ・フィードバックで効果が期待できるのは、文法項目のようにしっかりとルールがあって応用がしやすいものです！
- ・大切なことは「自分で書き直せる力を学生につけること」です。
- ・語彙やコロケーションについて:いいアウトプットのためには、いいインプットを！
- ・L2で書けるようになるためには、L1 での書く力(考える力)の育成が必要 etc…

講演後の茶話会では、新谷先生が体験されたシンガポールとニュージーランドの驚きの教育事情を聞くことができ、贅沢極まりない一日となりました。

最後になりますが、お忙しいところ、講演を引き受けてくださったうえに、今回の講演のために特別に日本語で資料を作成くださった新谷先生に感謝いたします。

(文責: 戎 妙子)



< 先生の話に集中するフロア >

研究発表

発表 1 朝鮮語における味覚形容詞の程度性研究—辛 “맵다” 苦 “쓰다” を中心に—

日野千秋 氏(高 先生ゼミ生)

発表 2 「英語シャドーイングの足場掛けとしてのシンクロ・リーディング：音声変化の視点から」

胡海 氏(山根先生ゼミ生)

一人目の発表は、高先生のゼミ生日野千明さんで、朝鮮語における味覚形容詞の程度性について、一辛 “맵다” と苦 “쓰다” を中心に発表いただきました。

英語や日本語は「辛い」や「苦い」の程度を表す場合、「とても」「少し」など副詞を加えて表すのが常ですが、発表の中で、朝鮮語の場合その程度や痺れの度合いによって、形容詞自体が変化するというのを聞いて、大変驚きました。食事を共にすることで、交流が深まるのがよくあります。

韓国グルメは日本でも人気を博していますが、味にまつわる微妙な表現を少し知っていることで、更に親近感が増すのではないかと感じました。

二人目の発表は、山根先生のゼミ生、胡海さんで、音声変化とポージングに焦点を当てて英語シャドーイングの足場掛けとしてのシンクロ・リーディングの有効性について発表いただきました。テキストを見ないシャドーイングは初級・中級レベルでは敷居が高いですが、テキストを見ながら行うシンクロ・リーディングを経て移行するという段階を踏めば、学生の活動に対する不安も下がるのではないかと感じました。

発表では、音声変化に対する意識付けの重要性が焦点化されていましたが、英語の映画を見ていて聞き取れず、後で字幕で確認して「そういうことを言っていたんだ!」と気づくことがあります。これまであまり意識していませんでしたが、単語がつながって音声変化が起こっていることに原因があったのかもしれません。現在、教材を開発中とのこと。完成の暁には是非発表いただければと思います。

(文責：戎妙子)



< 日野千明さん >



< 胡海さん >